

# 4 今後の対応の方向性

## 現況及び影響

- 原油等の代替調達や備蓄放出などにより、現在のところ重要物資の総量は充足している。一方で、国は目詰まり解消に向けた対応などを進めており、引き続き、**国の動向を注視**する必要がある
- 現時点では大きな混乱にまでは至っていないものの、県内事業者などからは原油価格の高騰に伴う様々なコスト増加や、一部資材（シンナー、包装材等）の調達が困難になるなど、**先行きを不安視する声がある**

## 主な事例

- 原材料・部品調達が困難となっているほか、仕入価格の高騰や、価格転嫁ができず利益が減少するなどにより、中小事業者への影響が大きい
- 燃油の価格上昇により施設の燃料費への影響が懸念
- ナフサ由来の資材（合成ゴム、合成繊維、塗料、塗装用シンナー等）の調達が困難となっており、納期や価格への影響を懸念
- プラスチック包装資材の高騰により、資材調達を危惧

## 対応の方向性（案）

- 引き続き既存事業を活用しつつ、特に燃料の高騰や物資の供給不足の影響を強く受ける中小企業等に対し、事業継続性を高めるための支援を検討
- 国際情勢や、国の流通の目詰まり解消に向けた取組などの状況等も注視しながら、必要に応じて、国への要望などを検討